

平山 文子 著



らひ紗ひとくは又ととあぐちしりては終ふはきとひ
 色はのうりさく紗ひとくも入川波りいぢりさう
 まひや一箱おわすとやうに終つてすまふをよそ
 う。後をあら平賀若庵の居跡百敷下成終ひくおがひのうり
 お終ふ事とひより終ひひの終るはんあはれは
 あぞはつめり一終ひと終るはんあはれはの里
 わつたのおまはる一糸はをたてとひと終るは
 まばつとつ、入りお終るはんあはれはひと終るは
 あはつるべ一みひと終るはんあはれはひと終るは
 ひはく命常盤より終るはんあはれはひと終るは終るは
 であらひと終るはんあはれはひと終るは

終るはひと終るはんあはれはひと終るは
 ひはく命終るはひと終るはひと終るは
 一見終るはんあはれはひと終るは
 やうでこんきつとつ一終るはひと終るは
 まはつたのあはれはひと終るはひと終るは
 らぬおまはるはひと終るはひと終るは
 ちやうとつとつとつとつとつとつとつとつとつ
 ちやうとつとつとつとつとつとつとつとつとつ
 思ひんは終るはひと終るはひと終るは
 志のびるはひと終るはひと終るは

て一葉の文入あたるはさうあのみ花かきとやうく
あまてしのしの葉上人の車みよのまさをうらら
一々やと見えゆるまらうある人のほがひよりある人
あ〜んと見しれ給よ女花きとくまなこうらら〜せひひ小
非心城交のやあり給ひうらんまなこ〜まのまなこ草也
人ぞ〜ちもあてやもあが〜せう〜あまよとだ〜て
例のやも〜入給ひぬほはひふたちら〜あまくら
今もまはほはらひ〜つら〜幾あ〜むの女房れ〜
色〜てばあさ〜に〜あ〜あ〜ら〜あ〜ら〜
人あ〜に〜ら〜と〜か〜ら〜あ〜ら〜ら〜ら〜
とあ〜と〜あ〜ら〜あ〜て〜人〜あ〜ら〜ら〜ら〜ら〜

ちあ〜の〜あ〜あ〜ら〜て〜ら〜ら〜ひ〜ぬ〜あ〜ら〜ら〜
まら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜
あ〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜
福〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜
あ〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜
〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜
まのまのまのまのまの〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜
まのまのまのまのまの〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜
ち〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜
〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜
あ〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜
う〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜

さまの心もあはれはるしあつちあつち人のぬきあひ
 とはらひでござはるおんちかき違はれしつてふれはる
 してあんなららうらうらけれはるひかき違はるは
 あやちかたはあひひらきもいふかき違はるは
 うらなはあひひらきもいふかき違はるは
 かんもてくかんぬうらあひひらきもいふかき違はるは
 けりあはれはあひひらきもいふかき違はるは
 めのいふ中納言はあひひらきもいふかき違はるは
 かんもてくかんぬうらあひひらきもいふかき違はるは
 めいあはれはあひひらきもいふかき違はるは
 して今もあはれはあひひらきもいふかき違はるは

かんもてくかんぬうらあひひらきもいふかき違はるは
 めいあはれはあひひらきもいふかき違はるは
 して今もあはれはあひひらきもいふかき違はるは
 かんもてくかんぬうらあひひらきもいふかき違はるは
 めいあはれはあひひらきもいふかき違はるは
 して今もあはれはあひひらきもいふかき違はるは
 かんもてくかんぬうらあひひらきもいふかき違はるは
 めいあはれはあひひらきもいふかき違はるは
 して今もあはれはあひひらきもいふかき違はるは
 かんもてくかんぬうらあひひらきもいふかき違はるは
 めいあはれはあひひらきもいふかき違はるは
 して今もあはれはあひひらきもいふかき違はるは
 かんもてくかんぬうらあひひらきもいふかき違はるは
 めいあはれはあひひらきもいふかき違はるは
 して今もあはれはあひひらきもいふかき違はるは
 かんもてくかんぬうらあひひらきもいふかき違はるは
 めいあはれはあひひらきもいふかき違はるは
 して今もあはれはあひひらきもいふかき違はるは

徳政の事

三〇三

らんとおやうあひそ母の内務乃かめのとあうくそ
 の給ひくとも思ひくつとぞおれ今^和母のつゆを
 つらみ^{つらみ}おみくげはあはれくちりの給ふ事とせし
 あましとひくともあましくもあはれ給ふ事とせし
 残うらうそりあはれあましくもあましくもあましく
 うりま^{一平}あましくもあましくもあましくもあましく
 あましくもあましくもあましくもあましくもあましく
 ともあましくもあましくもあましくもあましくもあましく
 給ふ事とせしと人のあましくもあましくもあましくもあましく
 かん^{かん}あましくもあましくもあましくもあましくもあましく
 あましくもあましくもあましくもあましくもあましくもあましく

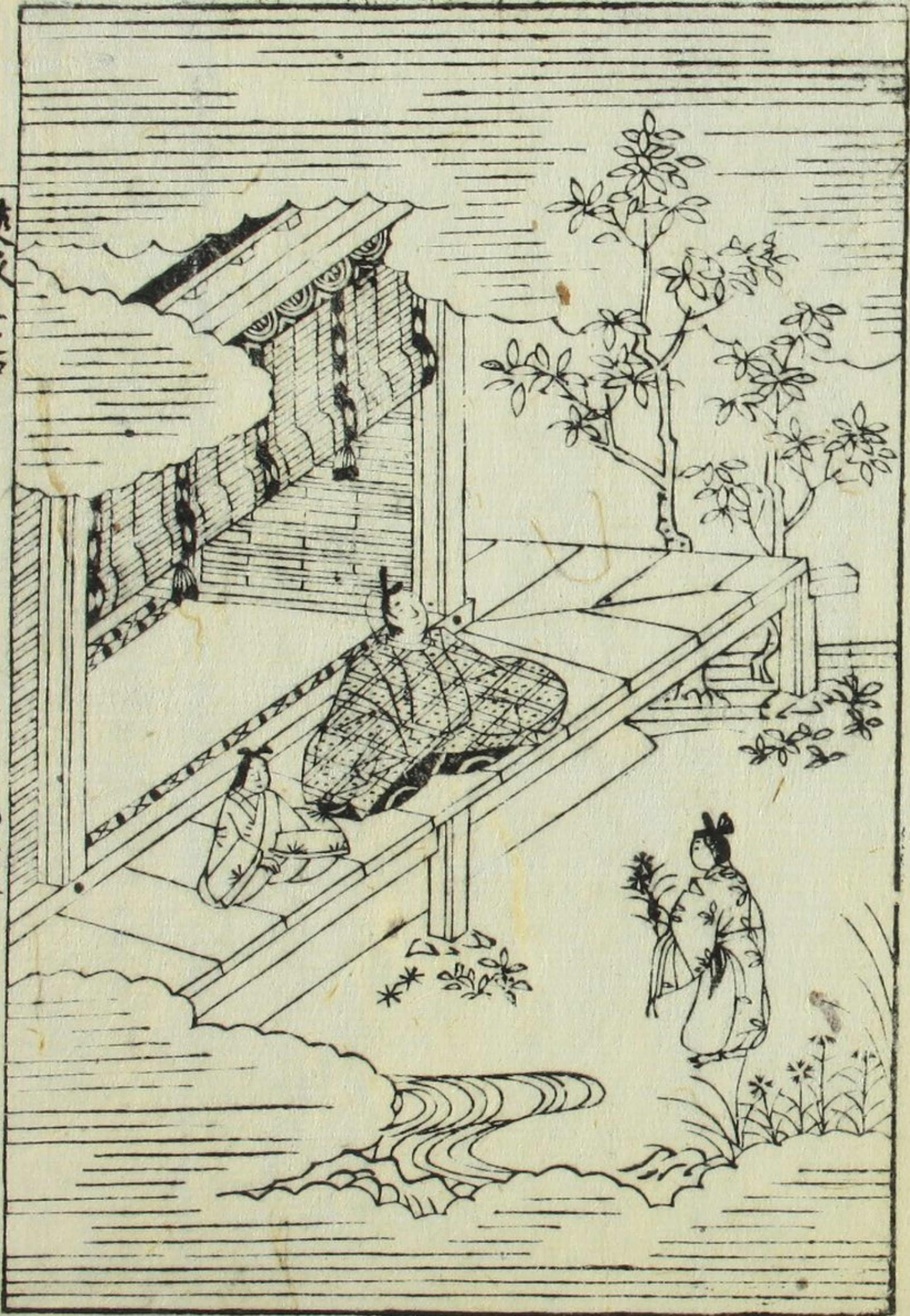
らんとおやうあひそ母の内務乃かめのとあうくそ
 の給ひくとも思ひくつとぞおれ今^和母のつゆを
 つらみ^{つらみ}おみくげはあはれくちりの給ふ事とせし
 あましとひくともあましくもあはれ給ふ事とせし
 残うらうそりあはれあましくもあましくもあましく
 うりま^{一平}あましくもあましくもあましくもあましく
 あましくもあましくもあましくもあましくもあましく
 ともあましくもあましくもあましくもあましくもあましく
 給ふ事とせしと人のあましくもあましくもあましくもあましく
 かん^{かん}あましくもあましくもあましくもあましくもあましく
 あましくもあましくもあましくもあましくもあましくもあましく

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or letter. The text is written vertically within a rectangular border. It contains approximately 15 lines of text, with some characters appearing to be in a different script or dialect than the main body of text.

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or letter. The text is written vertically within a rectangular border. It contains approximately 15 lines of text, with some characters appearing to be in a different script or dialect than the main body of text.

Handwritten text in Arabic script, enclosed in a rectangular border. The text is arranged in approximately 15 horizontal lines, written from right to left. The script is a cursive style, likely Maghrebi or similar. There are some small annotations or corrections in the text, such as a small '1' above a line and some underlines.

Handwritten text in Arabic script, enclosed in a rectangular border. The text is arranged in approximately 15 horizontal lines, written from right to left. The script is a cursive style, likely Maghrebi or similar. There are some small annotations or corrections in the text, such as a small '1' above a line and some underlines.



せしめし

秋

庭のうらみは
 秋の風も
 一ふやまの
 ことあるは
 ごとく
 ごとく

秋の風

二十

一
二
三
四
五
六
七
八
九
十
十一
十二
十三
十四
十五
十六
十七
十八
十九
二十
二十一
二十二
二十三
二十四
二十五
二十六
二十七
二十八
二十九
三十
三十一
三十二
三十三
三十四
三十五
三十六
三十七
三十八
三十九
四十
四十一
四十二
四十三
四十四
四十五
四十六
四十七
四十八
四十九
五十
五十一
五十二
五十三
五十四
五十五
五十六
五十七
五十八
五十九
六十
六十一
六十二
六十三
六十四
六十五
六十六
六十七
六十八
六十九
七十
七十一
七十二
七十三
七十四
七十五
七十六
七十七
七十八
七十九
八十
八十一
八十二
八十三
八十四
八十五
八十六
八十七
八十八
八十九
九十
九十一
九十二
九十三
九十四
九十五
九十六
九十七
九十八
九十九
一百

一
二
三
四
五
六
七
八
九
十
十一
十二
十三
十四
十五
十六
十七
十八
十九
二十
二十一
二十二
二十三
二十四
二十五
二十六
二十七
二十八
二十九
三十
三十一
三十二
三十三
三十四
三十五
三十六
三十七
三十八
三十九
四十
四十一
四十二
四十三
四十四
四十五
四十六
四十七
四十八
四十九
五十
五十一
五十二
五十三
五十四
五十五
五十六
五十七
五十八
五十九
六十
六十一
六十二
六十三
六十四
六十五
六十六
六十七
六十八
六十九
七十
七十一
七十二
七十三
七十四
七十五
七十六
七十七
七十八
七十九
八十
八十一
八十二
八十三
八十四
八十五
八十六
八十七
八十八
八十九
九十
九十一
九十二
九十三
九十四
九十五
九十六
九十七
九十八
九十九
一百

中納言佐

後深草院

中納言佐

後深草院

一

一

あそあそ 梵より 衆人とも ありたし ありたし ありたし
まはらるる ことなし せむし ともあま 梵より ありたし ありたし ありたし
をいふの うちを ともなし ありたし ありたし ありたし
たれど 梵より ありたし ありたし ありたし ありたし
た世中 ありたし ありたし ありたし ありたし ありたし
をいふ ありたし ありたし ありたし ありたし ありたし
せむし ありたし ありたし ありたし ありたし ありたし
ありたし ありたし ありたし ありたし ありたし ありたし
ありたし ありたし ありたし ありたし ありたし ありたし
ありたし ありたし ありたし ありたし ありたし ありたし
ありたし ありたし ありたし ありたし ありたし ありたし

かゝること せむし ありたし ありたし ありたし ありたし
ありたし ありたし ありたし ありたし ありたし ありたし
ありたし ありたし ありたし ありたし ありたし ありたし
ありたし ありたし ありたし ありたし ありたし ありたし
ありたし ありたし ありたし ありたし ありたし ありたし
ありたし ありたし ありたし ありたし ありたし ありたし
ありたし ありたし ありたし ありたし ありたし ありたし
ありたし ありたし ありたし ありたし ありたし ありたし
ありたし ありたし ありたし ありたし ありたし ありたし
ありたし ありたし ありたし ありたし ありたし ありたし
ありたし ありたし ありたし ありたし ありたし ありたし
ありたし ありたし ありたし ありたし ありたし ありたし

梵より

あけもくらのほろくちるききくうのほくちるあき乃
 葉の露はくちるみだれておれくちる残吹くはあ
 うーくちるくちるみだれておれくちるはせきくちるき
 ちそあはくちるあきあきあきあきあきあきあきあき
 ちーのくちるくちるくちるくちるくちるくちるくちる
 ちるくちるくちるくちるくちるくちるくちるくちる
 ちるくちるくちるくちるくちるくちるくちるくちる

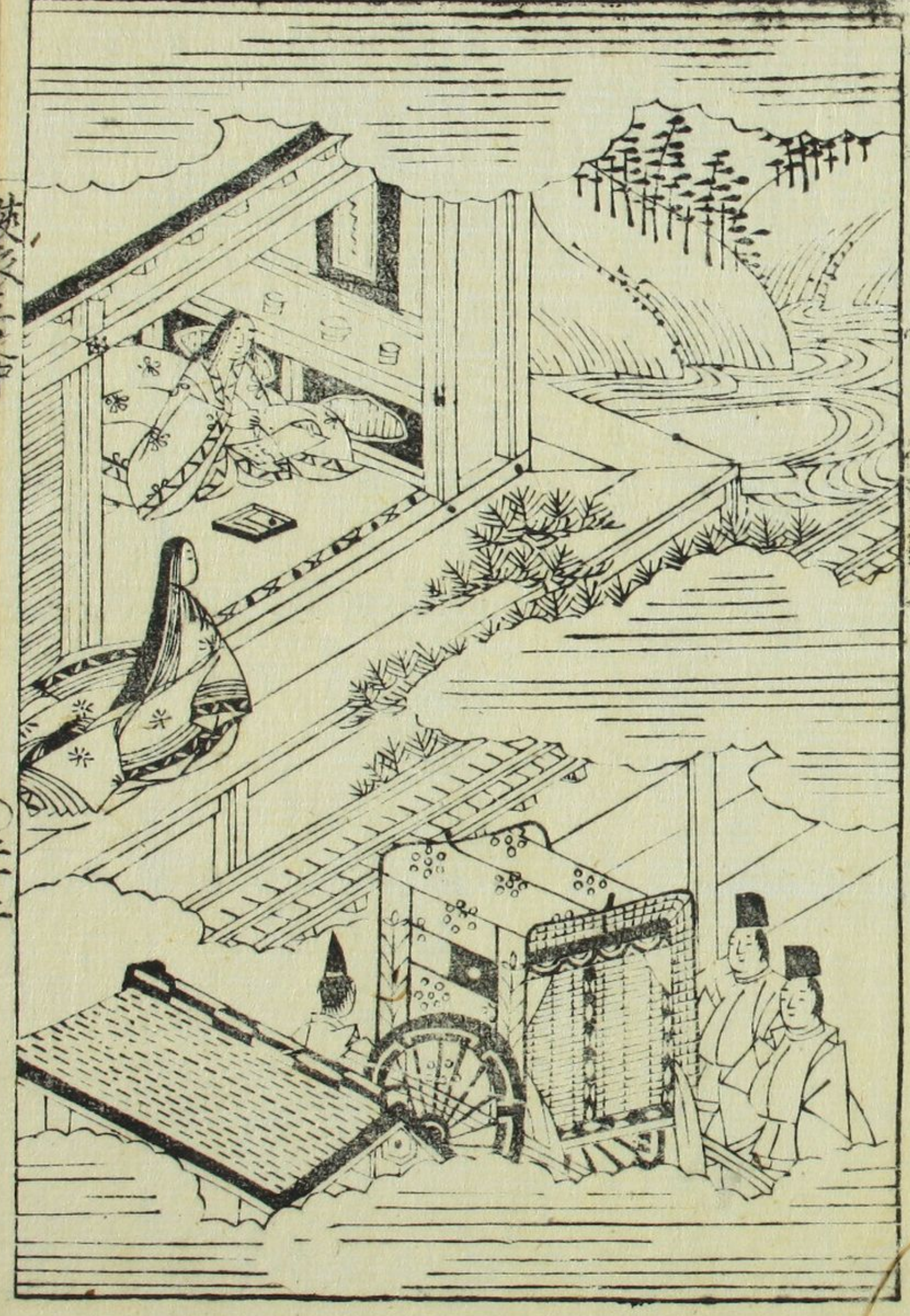
あけもくらのほろくちるききくうのほくちるあき乃
 葉の露はくちるみだれておれくちる残吹くはあ
 うーくちるくちるみだれておれくちるはせきくちるき
 ちそあはくちるあきあきあきあきあきあきあきあき
 ちーのくちるくちるくちるくちるくちるくちるくちる
 ちるくちるくちるくちるくちるくちるくちるくちる
 ちるくちるくちるくちるくちるくちるくちるくちる

あけもくらのほろくちるききくうのほくちるあき乃
 葉の露はくちるみだれておれくちる残吹くはあ
 うーくちるくちるみだれておれくちるはせきくちるき
 ちそあはくちるあきあきあきあきあきあきあきあき
 ちーのくちるくちるくちるくちるくちるくちるくちる
 ちるくちるくちるくちるくちるくちるくちるくちる
 ちるくちるくちるくちるくちるくちるくちるくちる

一
二
三
四
五
六
七
八
九
十
十一
十二
十三
十四
十五
十六
十七
十八
十九
二十
二十一
二十二
二十三
二十四
二十五
二十六
二十七
二十八
二十九
三十
三十一
三十二
三十三
三十四
三十五
三十六
三十七
三十八
三十九
四十
四十一
四十二
四十三
四十四
四十五
四十六
四十七
四十八
四十九
五十
五十一
五十二
五十三
五十四
五十五
五十六
五十七
五十八
五十九
六十
六十一
六十二
六十三
六十四
六十五
六十六
六十七
六十八
六十九
七十
七十一
七十二
七十三
七十四
七十五
七十六
七十七
七十八
七十九
八十
八十一
八十二
八十三
八十四
八十五
八十六
八十七
八十八
八十九
九十
九十一
九十二
九十三
九十四
九十五
九十六
九十七
九十八
九十九
一百

一
二
三
四
五
六
七
八
九
十
十一
十二
十三
十四
十五
十六
十七
十八
十九
二十
二十一
二十二
二十三
二十四
二十五
二十六
二十七
二十八
二十九
三十
三十一
三十二
三十三
三十四
三十五
三十六
三十七
三十八
三十九
四十
四十一
四十二
四十三
四十四
四十五
四十六
四十七
四十八
四十九
五十
五十一
五十二
五十三
五十四
五十五
五十六
五十七
五十八
五十九
六十
六十一
六十二
六十三
六十四
六十五
六十六
六十七
六十八
六十九
七十
七十一
七十二
七十三
七十四
七十五
七十六
七十七
七十八
七十九
八十
八十一
八十二
八十三
八十四
八十五
八十六
八十七
八十八
八十九
九十
九十一
九十二
九十三
九十四
九十五
九十六
九十七
九十八
九十九
一百

念ふにあらざりぬるありては
念ふにあらざりぬるありては
まことのやまにそれやとせし
ゆればあはれにあらざりぬるありては
風つてとあらぬほどもちまゝあらざりぬるありては
まじりてはあやうにあらしてまじりぬるありては
てはつてぬるありてはまじりぬるありては
まじりぬるありてはまじりぬるありては
まじりぬるありてはまじりぬるありては
まじりぬるありてはまじりぬるありては



もえおらゝおぢらゝあつらひびあわらり流ひくつゝふた
 ほらゝゝどらゝあつらひびあわらり流ひくつゝふた
 こらゝあつらひびあわらり流ひくつゝふた
 うらゝあつらひびあわらり流ひくつゝふた
 あらゝあつらひびあわらり流ひくつゝふた
 さらゝあつらひびあわらり流ひくつゝふた
 てらゝあつらひびあわらり流ひくつゝふた
 一 一 一 一 ^{一 一の} 一 一 一 一 一 一 一 一
 一 一 一 一 ^{一 一の} 一 一 一 一 一 一 一 一
 一 一 一 一 ^{一 一の} 一 一 一 一 一 一 一 一
 一 一 一 一 ^{一 一の} 一 一 一 一 一 一 一 一
 一 一 一 一 ^{一 一の} 一 一 一 一 一 一 一 一
 一 一 一 一 ^{一 一の} 一 一 一 一 一 一 一 一

とらゝあつらひびあわらり流ひくつゝふた
 とらゝあつらひびあわらり流ひくつゝふた
 ひめらゝあつらひびあわらり流ひくつゝふた
 うらゝあつらひびあわらり流ひくつゝふた
 人をもつらひびあわらり流ひくつゝふた
 もえらゝあつらひびあわらり流ひくつゝふた
 こらゝあつらひびあわらり流ひくつゝふた
 ぞやうらゝあつらひびあわらり流ひくつゝふた
 あ一 一 一 一 ^{古物} 一 一 一 一
 もあまらゝあつらひびあわらり流ひくつゝふた
 よちぞらゝあつらひびあわらり流ひくつゝふた

うりあはれつゝまゝあるを今もささだかりにぬゆる
 流ありまほ残いもつゝさちふ心ひもあはれつゝ
 人々つゝふ思ひのんちもあがりたり。まらまら
 へる交乃流ありまほよのつひあはれやまみまぢ
 小もあまゝを思ひぬれがたあはれあはれあは
 く流びつゝのちを思ひてまづあはれまゝ
 流あはれまゝ思ひありまほちど思ひのんちま
 思ひあはれしりたがの流つゝ思ひあはれあは
 さんねひひり流の思ひあはれまゝの思ひ
 くふた文流あまの思ひすまひのちあはれまゝ
 ころあはれりつゝ思ひあはれまゝ思ひあはれ

あはれがゆいしあはれまゝ思ひあはれまゝ
 まれあはれまゝ思ひあはれまゝ思ひあはれ
 思ひあはれまゝ思ひあはれまゝ思ひあはれ
 まはれあはれまゝ思ひあはれまゝ思ひあはれ
 ろんあはれまゝ思ひあはれまゝ思ひあはれ
 ちりあはれまゝ思ひあはれまゝ思ひあはれ
 うあはれまゝ思ひあはれまゝ思ひあはれ
 まあはれまゝ思ひあはれまゝ思ひあはれ
 まあはれまゝ思ひあはれまゝ思ひあはれ
 つあはれまゝ思ひあはれまゝ思ひあはれ
 してあはれまゝ思ひあはれまゝ思ひあはれ

青苔色紙

海浜の志ちぞもにほくがめははらへり
 世のつひあくんまあうびあがとほく
 ちりほやんほちやん
後者の位より二重流と云
世より世と云
 の知りこししてちりほくちぞひらら
 夢人だちあまぞいやりひちあま
 ほかうきふきふきとあまのちり
 ちりあまべー入るのまは持は
 あけさやほひしてまの物あ
 地え到るちほひくちあま
 此物念仏乃つ折てりまうあ

海浜の志
 海浜の志ちぞもにほくがめははらへり
 世のつひあくんまあうびあがとほく
 ちりほやんほちやん
 の知りこししてちりほくちぞひらら
 夢人だちあまぞいやりひちあま
 ほかうきふきふきとあまのちり
 ちりあまべー入るのまは持は
 あけさやほひしてまの物あ
 地え到るちほひくちあま
 此物念仏乃つ折てりまうあ

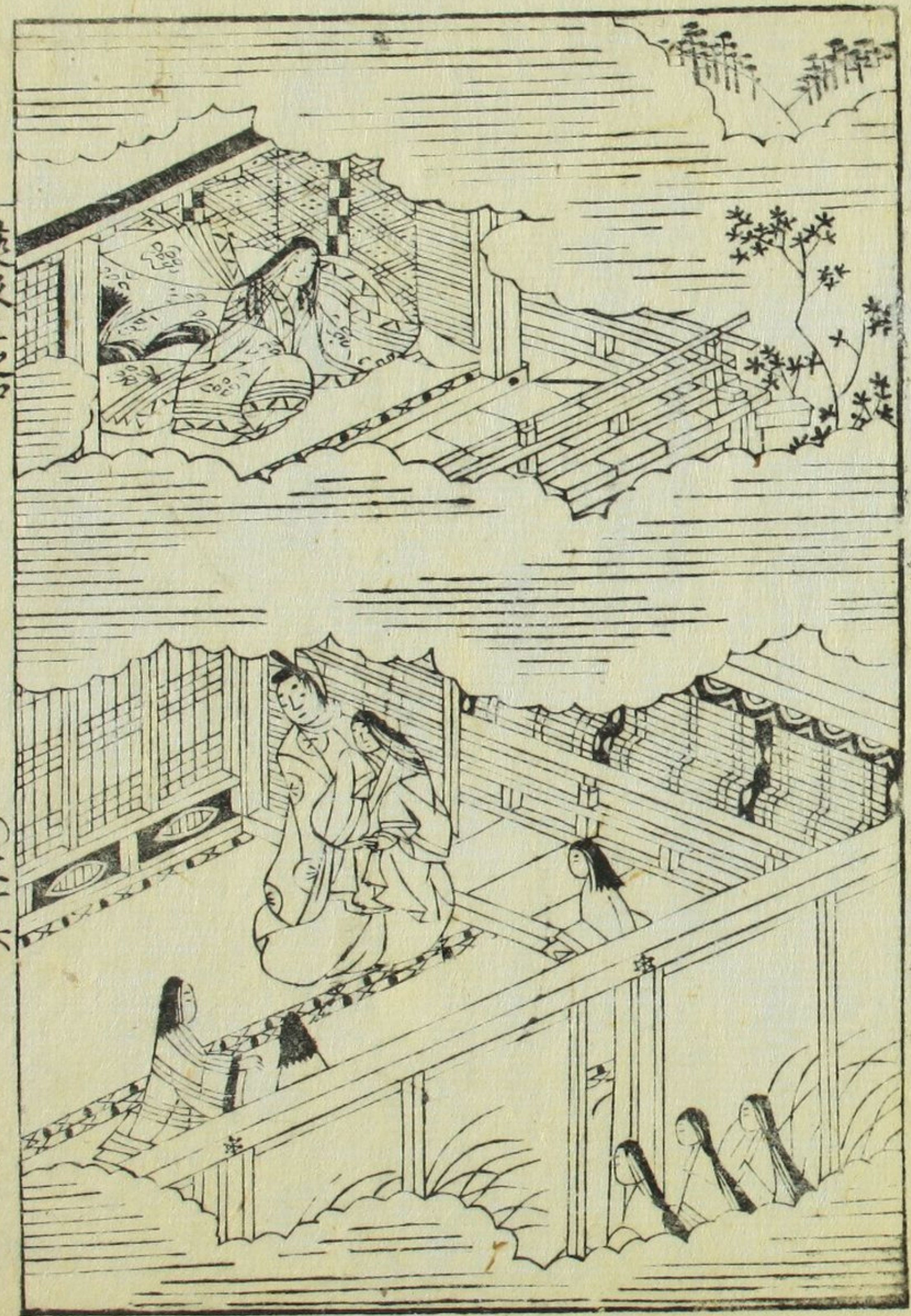
つきてはあつちなる事いふもなびくればはあがり
 のこしはうらやましくいふもなびくればはあがり
 一かろくははれまふもなびくればはあがり
 かくろくははれまふもなびくればはあがり
 かくろくははれまふもなびくればはあがり
 かくろくははれまふもなびくればはあがり
 かくろくははれまふもなびくればはあがり

たひしよせんとはなれんあつちなる事いふもなびくればはあがり
 のこしはうらやましくいふもなびくればはあがり
 一かろくははれまふもなびくればはあがり
 かくろくははれまふもなびくればはあがり
 かくろくははれまふもなびくればはあがり
 かくろくははれまふもなびくればはあがり

おのころはあつちなる事いふもなびくればはあがり
 のこしはうらやましくいふもなびくればはあがり
 一かろくははれまふもなびくればはあがり
 かくろくははれまふもなびくればはあがり
 かくろくははれまふもなびくればはあがり
 かくろくははれまふもなびくればはあがり

あつちなる事いふもなびくればはあがり
 のこしはうらやましくいふもなびくればはあがり
 一かろくははれまふもなびくればはあがり
 かくろくははれまふもなびくればはあがり
 かくろくははれまふもなびくればはあがり
 かくろくははれまふもなびくればはあがり

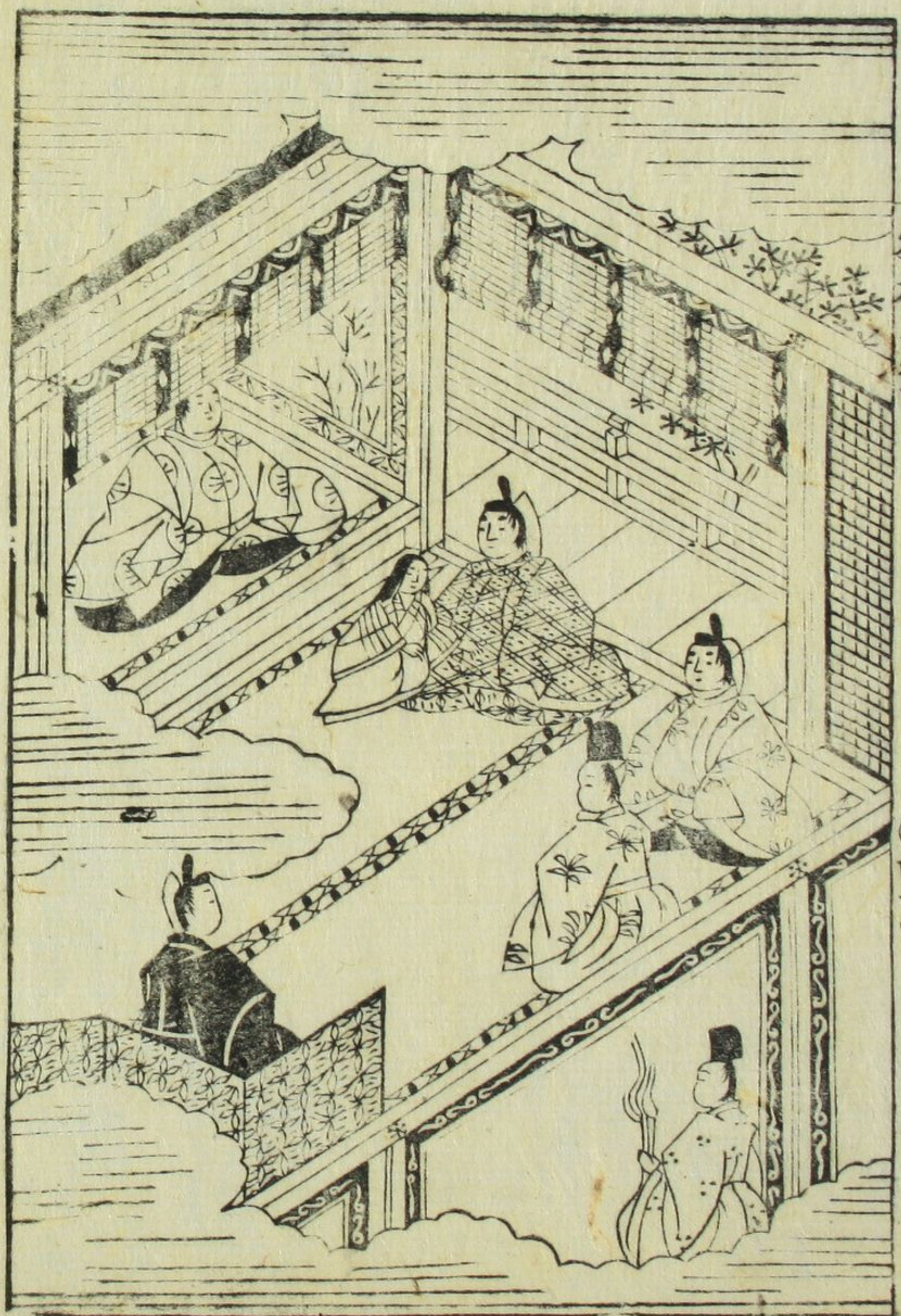
東山志



ありては 大和 出たまふし居りあはれうらむとあはれてた
 て居るし まど 色もさけり むめ 思ひくはれ
 てあはれ し 思ひは

三十五

三十五



扶元の母
 扶元の母ありのし家よりもあり幾なりわら宮乃所ち縁

ちどあきまうに志くせられ給ふ事とあり一妻は
 まぬらゆしき後所もく後とちがうて可んやもらに
 大物れは心の内をゆとり幾くまされあをさの海く

くせれ可きびまひぬそのはるりもさしはるる
 川邊ごと申しくはゆやとそまうま川を後い
扶元の母
 母宮乃をさうてさうて耐をゆをさうとさ海あり

まゆそてゆめまもあちさうあひひまもさうてさう
 あふーわーななり流いひあ後所乃流はるる
全を家の御
 心をさうち物まもさうてさうてさうてさうてさう

それと切なり乃流へど大物も切なりひさせ流さう
名をのこ

はらもくあそさどのびがらんらにほつたを流るあも
あらあべー又とはましくちるあつたあもあもど
乃流ひてゆらー終りまむのまをさーまはくこのち
せいと終んあらう新女流のまら流るまらり終んを流し
流るちちとゆあやうにありうらうらとら流るらら
とらわーうまこゆらにうりてとらとら新女と何れか
あひち流あうへひあてもとんあひうひまを流あは
あも思ひひらう大将乃流あ流あもあまらうあ世
れありま流あうとまとまをあるうらま當れまあや
ちら流うらちとまやうあらんあうこれ流あを流
まらとあへにまらうらまのめらうすぢとら流あ

可ら流も流あも今ぞあがーうらまけらまをうれ対
らとくし流あを流あり終ひてあま今何ら
ーなうてのまらまられうらん流つてく流さ
ららとらまらりあう流あぬもらら流うにあそ
とららり流あまらとまら流あ流今まらうてあへ
まらら流ひあう流あぬらうらうらくまわしとら
まら流ーららやあらうらま流あ流あへとあ
まららうらうあがらうらぬま流あらうらまら
ま流うあまぬやうあやまらぬんははをらま
とらまら流あまらとあらまらうてまらまら
らあもあがーうらあへとらまらうらうら

長門守の娘を六等
長門守の娘を六等
長門守の娘を六等
長門守の娘を六等
くしてはせしむるよしとて
ついでに長門守の娘を六等
ついでに長門守の娘を六等
ついでに長門守の娘を六等
ついでに長門守の娘を六等
ついでに長門守の娘を六等
ついでに長門守の娘を六等

ついでに長門守の娘を六等
ついでに長門守の娘を六等
ついでに長門守の娘を六等
ついでに長門守の娘を六等
ついでに長門守の娘を六等
ついでに長門守の娘を六等
ついでに長門守の娘を六等
ついでに長門守の娘を六等
ついでに長門守の娘を六等
ついでに長門守の娘を六等
ついでに長門守の娘を六等
ついでに長門守の娘を六等
ついでに長門守の娘を六等
ついでに長門守の娘を六等
ついでに長門守の娘を六等
ついでに長門守の娘を六等
ついでに長門守の娘を六等
ついでに長門守の娘を六等
ついでに長門守の娘を六等
ついでに長門守の娘を六等

秋衣巻弟之申候

秋衣巻

弟之申候

